

街道を歩く

旅籠住吉屋

文化文政期に宿屋営業の記録残る
国道拡幅のため南へ約20m、東へ約30m
移動したが母屋と蔵の造りは当時のまま
という。文政4年(1821)記録では1年間の
宿泊者は790人。武士も宿泊したという



愛宕社(祭神火具都知命)

正和2年(1313)古墳の上に鎮座される。
後期の横穴式石室墳と推測されるが
詳細不明。勝川古墳群で唯一現存。

八幡社(祭神 菅田別命ほか)

下条本郷より寛文11年(1671)現在地に鎮座
柏井荘(下条、上条、松河戸、中切村)の総鎮守。

桂林寺(臨済宗妙心寺派)

本尊観世音菩薩、寛文11年寂の達禪和尚
が建立。この地は尾張藩竹腰山城守の知
行地であったので寺に竹腰家の位牌が残る。

康申寺

本尊青面金剛童子
境内に観音堂、十一面観音石像などがある。
江戸時代は休憩所として利用されたという。
昭和50年桂林寺に合祀される。

下街道:勝川橋—鳥居松—大泉寺

勝川宿(名古屋から2里)

正式な宿場町ではなかったが馬継ぎや人足継ぎ
が行われていた。ここは小牧へ行く分岐点であつた
ので道の両側には旅籠、店屋、芝居小屋などあり
賑わっていたという

鳥居松由来尾張御行によると
村東 下街道通りニアル民戸ヲ鳥居松
ト云、此中一町余カカリ、昔于此地ニ
大山児権現社鳥居アリシ跡ナルユエ
鳥居松島ト唱フテ也。
(小牧市大山の稚児神社鳥居があつた
ことか鳥居松)

鳥居松で
「夜と星の目は色かへて
鳥居松」也有



地蔵池懐古碑

伝によると文永年間(1264-75)この池から
地蔵尊の霊仏が出現したので承久3年(1221)
の姿に京都方に味方した山田明長公が開基、
無盡禅師を開山第一世とする瑞雲山地蔵寺を
池辺に建立。その後大雨の度に池は氾濫し、
付近に被害を及ぼしたので寺は大正12年現在
地に移され、池は地蔵公園となった。



大泉寺簡易水道水源跡石柱



林昌寺の梵鐘

梵鐘は延徳元年(1489)の銘があり歴史的にも
美術的にも価値が高いと言われる。
織田信雄が信長の大法会を開いた時熱田神宮寺
から没収して使ったという。

観音堂

お堂の中には馬頭観音石像、33の観音
を彫った石碑。お堂の横に飯田重蔵碑2基
(初代、2代目)

郷土館

建物は江戸時代末期、安政3年(1856)この地
の酒造家飯田重蔵の離れ座敷として建てられ
たもの、明治13年明治天皇御小休所となる。
その後一部改築されるがおおむね当時の形
とどめる。尾三銀行、大垣共立銀行所有となる
が昭和13年篠木村が買取り国の史跡となる。
敷地内に明治天皇御小休所碑、横井也有
句碑他ある。



蔦屋

江戸時代からの豪商、米、麦、肥料、
酒など商う。二階建て塗り屋造り、虫籠窓

油茂商店

江戸時代からの油屋、明治末
から味噌、溜、昭和10年から酒
も商う。

柏屋染工店

明治時代から続いた染物屋
中二階の建物、棟瓦に家紋
の鷹が金色に輝く。



太清寺(臨済宗龍源山)

天象12年(1584)小牧・長久手の戦いの時秀吉の
配下池田信輝の家康本拠地岡崎の奇襲を知つ
家康は小牧山を出発しこの寺の十王堂で休憩した
という。十王堂は狼煙代わりに焼かれたとも言われる
愛宕社の西側に再建されたが19号線拡幅のため昭和
55年太清寺境内に移される。
寺本堂裏に旗竿作ったといわれる竹藪が残る。

吉田城址

織田家家臣小坂孫九郎雄吉の城址吉田千代太郎)
父は前野小次郎宗康といい岩倉城主織田信安
の軍奉行勤める。雄吉はその長男で宗吉と言つた
岩倉落城後父は前野村に蟄居、宗吉は信長の命で
春日井柏井の小坂氏の名跡を継ぐ。その後信雄の
傳役なり、雄の字頂き雄吉となる。

孫小坂(吉田)孫四郎カネが「武功夜話」の作者。
次弟前野将右衛門長安は信長、秀吉に仕え但馬國
11万石、出石城主となるが秀次の件で息子と共に切腹
末弟は佐々成政の家老を勤め1万5千石砺波郡井波城主。

